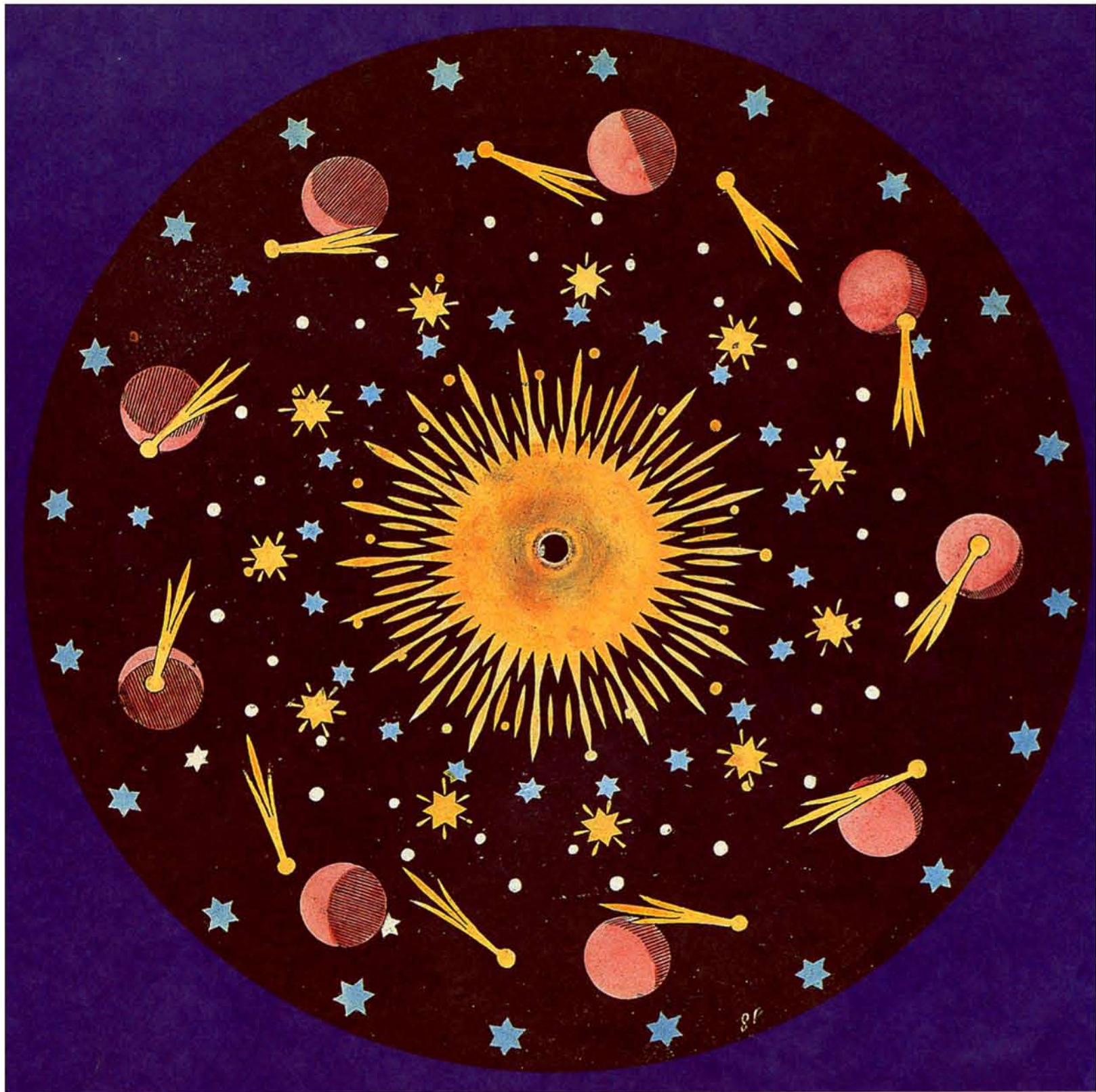




映像工夫館 作品展

Images and Technology Gallery Special Exhibition

PICTURES IN MOTION

ピクチャーズ・イン・モーション—日本のアニメーション表現

Pictures in Motion — Animations in Japan

1999.10.8 fri. — 2000.2.6 sun.



東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography

ピクチャーズ・イン・モーション—日本のアニメーション表現

PICTURES IN MOTION — Animations in Japan

1999年10月8日(金)—2000年2月6日(日)

主催＝東京都写真美術館 企画協力＝JAA 日本アニメーション協会 協力＝VIBE ミュージックチャンネル株式会社

会場＝地下1階映像展示室 ●観覧料＝一般500(400)円/小・中・高校生250(200)円 都内の小・中学生、第2・第4土曜日に観覧する高校生(要証明)は、映像工夫館展(常設展も含む)のみ無料になります。
()内は20名以上の団体料金 ●企画展との共通観覧料＝一般1000(800)円/学生800円/小・中・高校生500(400)円 小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護の方1名は無料になります。
学生の方は学生証をご提示ください。 ●開館時間＝10:00-18:00(木・金曜日は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで/休館日＝毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合はその翌日)

映像工夫館では、アニメーションの歴史と広がりを紹介するテーマ展「アニメーションズ—過去から未来へ」(2000年4月9日まで開催)と並行して、作品展のシリーズを開催しています。前回の「ビーイング・デジタル—アニメーションとメディア」では、アニメーションのデジタル化に注目し、セル画による劇場版長編作品や、2Dと3DCGを合成した作品、フルデジタルのゲーム映像、インスタレーション作品などを通して多様なメディアへの拡張を紹介しました。それに続く本展では、映像作家たちによるオリジナルの「驚き盤」や人形アニメーションなど、世界中で高く評価される日本のアニメーション表現にスポットをあてます。

会期前半(「驚き盤100連発」11月28日(日)まで)は、アニメーションの原点ともいわれている19世紀のアニメーション装置「驚き盤(フェナキスチスコープ)」をテーマに展示を行います。1830年代初頭にヨーロッパで考案されたフェナキスチスコープは、連続画を描いた円盤を回転させ、鏡に映してスリットからのぞく素朴な映像装置です。この装置が、現在に続く動画表現を大きく飛躍させました。当館の映像コレクションからオリジナル資料の展示を行うとともに、実際にさわって動かすことのできるレプリカを用意します。また、この装置から発想を得て制作され海外でも高く評価された映像作家たちの作品を展示します。会期中、アニメーション作家たちによる新しい「驚き盤」が展示に加わります。

会期後半(「日本の人形アニメーション」11月30日(火)からは、前半の展示に加え、すぐれたアニメーションを世界に発信しつづける日本アニメーション協会の協力を得て、人形(立体)アニメーションによる作品を特集する展示を行います。戦後から現代まで、国内外での高い評価に比べ、日本の人形アニメーションの流れが美術館で取り上げられる機会はほとんどありませんでした。本展は、先駆者たちの作品を含めて日本の人形アニメーションを検証する初めての試みです。立体を動かし、光と影の演出を含めてコマ撮りで表現する過程も紹介されます。会期中に開催されるワークショップや作品上映と併せて、日本のアニメーションに改めて注目し、新たな可能性を探る機会となるでしょう。

展示予定作家・資料

「驚き盤100連発」制作プロジェクト
日本アニメーション協会会員有志
「日本の人形アニメーション」
先駆者回顧 持永只仁・岡本忠成
/川本喜八郎をはじめとする現代
人形アニメーション作家(日本ア
ニメーション協会会員)の作品
展示
IKIF「ヘリオシネグラフィ」/古川
タク「驚き盤」/久里洋二「キネ
トスコープ」「キノーラ」/VIBE
「REMITV」/横尾忠則「地の鼓動
(アナモルフォーズ)」/岩井俊雄
「Copy Phenakisti-scope」
幻燈機/影絵/ゾマトロップ/驚き
盤(フェナキスチスコープ)/ブラクシ
ノスコープ/キネトスコープ/キノーラ/他、映
像装置コレクション

*会期中に小規模展示替えを行うため、時期によってご覧になれない作品がございます。また、日時等詳細は変更される場合があります。予めご了承くださいませ。



(左)「フェナキスチスコープ」1833年

(上)川本喜八郎「道成寺」1976年

(下左から)

岩井俊雄「時間屋II」1985年

毎日新聞社蔵・東京都写真美術館寄託予定

松村泰三「Space Cycloid」1987年

photo:内田秀孝

毎日新聞社蔵・東京都写真美術館寄託予定

森野和馬

「SPACE SHOWER TV JINGLE: Charge S」

© ストライプファクトリー

© スペースシャワーネットワーク

※下の3点はテーマ展(2月11日〜)で

展示されます

関連事業・講演会等のお知らせ

《アーティストトーク+ショーイング》
「日本の人形アニメーション—先駆者から現代まで」
参加アーティストたちが、岡本忠成・持永只仁ら先駆者の作品やその背景、現代の表現についてトーク&ショーイングを行います。

主催＝東京都写真美術館
企画協力＝日本アニメーション協会
日時＝2000年1月22日(土)/23日(日)
両日とも13:30-19:30
会場＝東京都写真美術館1階ホール・観覧無料 [定員200名]
講師＝川本喜八郎/森まさあき/山村浩二/他
日本アニメーション協会 http://jaa.saino.ne.jp

《VIBEステーションIDコンテスト'99 関連作品上映》
MTV JAPAN 時代から続けられてきたシンボル映像コンテストの受賞作品上映を行います。

主催＝東京都写真美術館
協力＝VIBE ミュージックチャンネル株式会社
日時＝12月4日(土)
授賞式 [主催＝VIBE 特別協賛＝
14:00- (招待者のみ)
受賞作品ショーイング
16:00-17:30 (一般参加プログラム・定員195名)
12月5日(日) 受賞作品ショーイング 11:00-17:30
会場＝東京都写真美術館1階ホール・観覧無料
VIBE ONLINE http://www.vibe.co.jp
VIBE and  are Trademark of Music Channel Co.,Ltd.

《CG連続ワークショップ》

コンピュータ・グラフィックスを扱う(第4期)
「パソコンでお絵描きワークショップ」
第4期は、コンピュータを使って楽しくお絵描き&アニメーションを作ります。
主催＝東京都写真美術館
講師＝うるまでび
日時＝Aコース:11月20日(土) Bコース:11月21日(日)
両日とも13:30-17:00
定員＝各25人 申込/切＝11月1日(月) 必着
参加費＝一般・大学生1000円/小・中・高校生500円
*参加の年齢制限はありません。

《マルチメディア・アーカイブ実験2000》

デジタルデータによる映像を主体としたマルチメディア・アーカイブ構築を目的に、利用者実験を行います。映像工夫館展の記録映像を含む貴重な映像作品・記録を、2階エントランスで無料検閲体験できます。
主催＝東京都写真美術館
協力＝NTTオープン・ラボ/NTT東日本研究開発センタ/NTT西日本研究開発センタ/岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)/株式会社日経映像/ビデオギャラリーSCAN
日時＝10月1日(金)～2000年3月15日(水)
会場＝東京都写真美術館2階エントランスホール

同時開催中の展覧会・映像工夫館

映像工夫館展「アニメーションズ—過去から未来へ」
2000年4月9日(日)まで

マルチスライドショー「ファンタスマゴリア(魔術幻燈)」

再現上映
今日のパビリオン映像やアミューズメントパークの原点である18世紀の魔術幻燈「ファンタスマゴリア」を、映像展示室で再現上映しています。
日時＝会期中、毎時30分より連続上映(約15分)
会場＝地下1階 映像展示室内 小劇場

学芸員によるフロア・レクチャー

日時＝毎月第2日曜日午後2時～(テーマ展・作品展共通)

同時開催中の展覧会・東京都写真美術館

企画展「アーヴィング・ベン全仕事」
1999年11月11日(木)～2000年1月23日(日)
常設展「写真表現の軌跡 第3部 ヨーロッパの写真」
1999年11月5日(金)～2000年1月23日(日)



「フェナキスチスコープ」
19世紀



東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
Tel. (03) 3280-0031 Fax. (03) 3280-0033
http://www.tokyo-photo-museum.or.jp

交通機関＝JR恵比寿駅より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内)
お車のご案内はご遠慮下さい。
ハロー・ダイヤル (03) 3272-8600